

# 5.3 学級のめあてをつくらう

## 1. 題材設定の理由

今までの学級生活から、問題点や良さを振り返らせ、どんな学級にしたいか一人一人に考えさせたい。そして、一人一人の願いを出し合ったり、教師の願いを話したりすることで、それぞれが生き、成長できるためにはどのようなことが大切になってくるかを考えさせたい。

子どもたちの中には、徐々に集団への所属感が生まれてくる。そこで、学級のめあてをつくる活動を通して、仲間との協力や仲間と共に高まることを意識させ、一人一人が1年間希望をもてるような学級のめあてをつくらせたい。

## 2. 指導のねらい

一人一人の学級への願いを出し合い、共通の願いを確認して学級のめあてをつくることができる。

## 3. 指導計画（全1時間）

本時	一人一人の願いを大切にしながら、学級のめあてをつくることができる。
事後	一人一人がアイデアを出し合いながら学級のめあての掲示物をつくり、掲示する。 朝の会や帰りの会、行事、取り組みを通して、学級のめあての見届け活動を行う。

	活動のねらい	活動の内容	指導・援助の留意点	資料等
はじめの活動	・4年生のときの学級の様子を思い出し、5年生の学級に生かすことができる。	◎4年生のときの学級の様子を思い出し、良さや課題を話し合う。 ◎教師の願いや、5年生で大切にしたいことの話聞く。	・学級委員や班など、司会や記録、黒板書記などはあらかじめ指導しておく。 ・良いことだけでなく、課題も見つめさせる。	・司会者用マニュアル ・説話例
課題：みんなの願いを出し合って、学級のめあてを決めよう。				
中心的活动	・仲間の意見を大切にしながら、学級のめあてを決めることができる。  ・学級のめあてをつくることができる。	◎どんな学級にしたいか、自分の願いを書く。 ◎一人一人の願いを発表し、交流する。 ・いじめや差別がない ・協力できる ・男女仲が良い ・活動をやりきる ・上級生として下級生に世話ができる  ◎仲間の意見を聞きながら、どんな学級にしたいか、まとめる。 ◎仲間の思いがこもった学級のめあてをつくる。	・できれば全員の思いを発表させるよう、司会者を指導しておく。 ・発言者の思いに「付け足し」「同じ」などのつぶやきや発言を引き出す。 ・象徴的な言葉、語呂合わせなど、イメージでき、覚えやすいものにする。	ノート①  ノート② ノート③
まとめ	・新学年に向けて希望をもたせる。	◎学級のめあてとともに、自分はどのような決意をもったかを書く。	・仲間の思いに対してどのように自分は考えたかを大切にする。	ノート④
事後	◎学級のめあての掲示づくり ・一人一人の願いを掲示物に表し、仲間と協力してつくることできる。	-製作手順- ◎めあての言葉をイメージしながら製作方法を出し合う。 ◎役割分担をして、グループごとに協力して製作する。	・事前にデザインを募集決定する。 ・製作に使う材料についてはあらかじめ用意しておく。 ・学級のめあての製作活動について評価する。	・色画用紙、掲示ボード、色紙
	◎見届け活動 ・あらゆる活動を通して学級のめあてを意識させる。	-見届け活動- ◎毎日の見届けの方法を確認する。 ◎行事や取り組みのめあてづくりや振り返りを行う。	・毎日の見届け活動をわかりやすくする掲示や、学級の高まりを明らかにした掲示を工夫する。	・見届けの掲示

### 《説話例》 「こんなクラスにしたい」

○名の仲間がこの5年1組で生活を共にすることになりました。4年生のときもそうだったと思いますが、何人かの仲間が集まると、楽しいことがいっぱいあります。それとともに悲しいことやつらいこともでてきます。でも、それは一人一人の成長にとっても大切だけれども、できればもっと大きく

成長し、一人一人がこの学級でよかったといえるようにしたいと思っています。そのためにまず大切にしたいことは、仲間を大切に、差別がないクラスです。以前、……。二つ目は上級生として学校の行事に積極的に……。